

高校歴史総合

大項目「B 近代化と私たち」

中項目（3）国民国家と明治維新 小項目（ア）

授業タイトル：チャーすが（どうする）琉球!?

～日本の領土画定で琉球王国存亡の危機！！どんな対応策を考えた？～

めあて：「琉球処分」の歴史的背景と、当時の琉球を取り巻く国際関係に着目し、琉球側の動きについて理解を深める。

内容：明治維新後の日本は、外交交渉、国交締結、領土画定を通して、主権国家・国民国家形成をめざした。領土画定の動きの中で、19世紀末、日本は琉球を編入するにいたったが（「琉球処分」）、それまで「日清両属」のもと琉球王国として独立していた琉球は、それらの動きに対して、どのようなアクションを起こしたのか。この教材では、「琉球処分」を表した絵（「国引き」『妙々雑俎』1879年（明治12）2月14日、東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫所蔵）や年表資料を導きの糸として、「琉球処分」にいたる歴史的背景と、当時の琉球を取り巻く国際関係に着目し、琉球側の動きについて理解を深める。

	内容
<p>導入（5分）</p> <p>① 課題把握</p>	<p>「琉球処分」を表した絵を提示し、当時の日本と琉球の関係や思惑について等、生徒が資料から気づいたこと、疑問をまとめる。</p> <p>【スライド1枚目】</p> <p>発問1：この資料から読み取れることや疑問を考えてみよう。</p> <p>①絵から読み取れることは何だろう。</p> <p>②絵の中の文章から読み取れること（単語）は何だろう。</p> <p>※資料の提示方法：生徒一人ひとりのタブレットで提示。</p> <p>※資料確認：電子黒板。生徒が発言した箇所を、線を引いて確認。</p> <p>※タブレット、電子黒板対応が難しければ PowerPoint スライド1枚目を印刷して配布。</p> <p>生徒発言</p> <p>読み取れること</p> <p>絵 右側人物：背広を着て、洋風の靴を履いている。陸から縄で引っ張っている。踏ん張っている。必死な表情 など</p> <p>左側人物：着物、二本簪。沖にいる。引っ張られている。びくともしない感じ。困惑した表情 など</p> <div data-bbox="853 1227 1417 1653" data-label="Image"> </div> <p>『妙々雑俎』1879年（明治12）2月14日「国引き」※東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫所蔵</p>

	内容
	<p>絵の中の文章</p> <p>「気を揉む、<u>渡海</u>」「この縄一本で今は保っているがプツリと切れたら」「引附る算段」「なかなか<u>重くてコ松ダぞ</u>」など</p> <p>※さう旨く烏賊の鞆丸：「そうは<u>いか</u>ない」の「いか」を「烏賊（イカ）」と掛けて表した洒落</p> <p>【スライド2枚目】</p> <p><u>発問2：この絵はある事件を表した風刺画です。これは何の場面でしょうか。読み解いていきましょう。</u></p> <p>①場所は？：海</p> <p>②何が行われている？：右の男性が左の人物（男性）を縄で引っ張っている。</p> <p>③時代はいつだろう？：右の男性は背広、洋風の靴。髪型も短髪。左側の人は着物。</p> <p><u>発問3：誰が誰を引っ張っているのか。</u></p> <p>右側の人物はどんな人？：日本の男性。この人の名前のヒントが文章にあります→「コ松ダ」松田さん</p> <p>左側の人物はどんな人？：琉球の男性。男性の結髪（カタカシラ）と二本簪は琉球を表している。琉球では男性も髪を結って簪をしていた。</p> <p><u>発問4：日本が「沖」にいる琉球を、「縄」で自分の方に引っ張っている様子を描いています。歴史上の何の事件でしょうか。</u></p> <p>生徒発言：「琉球処分」</p> <p>教師発言：この縄を引っ張っている人物（松田）は「琉球処分官」の松田道之を表しています。</p> <p><u>発問5：「琉球処分」とは、どのような出来事でしたか（中学校での既習事項）。</u></p> <p>生徒発言：明治初期に、日本が琉球を沖縄県とした。</p> <p><u>発問6：この絵は日本と琉球だけの関係に見えますが、文章を見ると、もう1つ別の国が関わっていることが分かります。どこでしょうか。</u></p> <p>生徒発言：分からない。</p> <p>教師発言：ヒントは次の文です。「この縄一本で保っているがプツリと切れたら豚尾（豚尾・とんび）トロトロと攫われては犬骨折りて鷹」：「豚尾（豚尾）」とは豚の尾。その形状から中国人（清）の弁髪を表象している。また、「豚尾（とんび）」はタカ科の鳥の「鷹（とび、とんび）」ともかけている。「鷹に油揚げをさらわれる」、すなわち縄が切れたら、中国が「とろとろ」とうれしそうに鳴いて琉球をさらってしまう。「犬骨折りて鷹」（にとられる・の餌食）とは、せっかく苦勞して手に入れたものを横からさらわれることを意味する故事成語で、日本の苦勞の成果を中国に奪われることを言わんとしていた。</p> <p><u>発問7：この絵を見て、当時の人々はどう思ったか。</u></p> <p>教師発言：この絵は、明治初期に東京で発刊されていた雑誌『妙々雑俎』（みょうみょうざっそ）の1879年（明治12）2月14日号に掲載されていた「国引き」という風刺画です。琉球という国を日本が引っ張って領土に組み込もうとして</p>

		内容
		<p>いる様子を表しています。この絵を見た当時の日本の人々はどう思ったでしょうか。</p> <p>生徒発言：琉球を領土に入れようとして、日本が苦勞して困っている。</p> <p><u>発問8：琉球はどう思っていたのかな？</u></p> <p>教師発言：この風刺画は日本側の視点で描かれており、琉球を日本の領土に入れようとして日本が困っている状況が表されています。では、当時の琉球はどう思っていたのでしょうか。</p> <p>明治12年（1879年）、「琉球処分」を経て琉球は沖縄県となりました。風刺画に「琉球は重くて引っ張ることができない。困った」とあるように、明治政府が琉球を日本領土に組み込もうとした際、琉球がそれに従わず、難航していた状況がありました。</p> <p>では琉球は、明治政府の領土画定方針に対し、どのような対応策を考えたのでしょうか。</p>
	② め あ て	<p>【スライド3枚目】 ちゃーすが（どうする）「琉球処分」！？ ～日本の領土画定で琉球王国存亡の危機！！どんな対応策を考えた？～</p>
展 開 （ 35 分）	③ 見 通 し （ 予 想 5 分）	<p>ワークシート配布</p> <p><u>講義：琉球と日本の歴史的關係を振り返ってみよう。</u></p> <p>【スライド4枚目～9枚目】※既習事項の振り返りと背景の確認</p> <p>教師説明：そもそも、日本が琉球を日本領に組み込もうとした歴史的背景は何だったか。振り返ってみよう。</p> <p>【スライド4枚目】 琉球・中国・日本の關係（17～19世紀） →薩摩藩の琉球侵攻後、日清両属となっていたことを解説</p> <p>【スライド5枚目】 日本の近代化：欧米諸国の進出から、日本の開国、近隣諸国との国交と領土画定 →幕末に欧米船が来航し締結された不平等条約の解消を目指した明治政府の動きを確認</p> <p>【スライド6枚目】 明治初期の国交と領土画定の流れ →領土画定の時期について確認。琉球もその動きの中の一つ</p> <p>【スライド7枚目】 明治政府による琉球へのアクション① →琉球処分以前に明治政府が琉球に対して行ったことを確認（1872年、1873年）</p>

	内容
	<p>【スライド8枚目】明治政府による琉球へのアクション② →琉球処分以前に明治政府が琉球に対して行ったことを確認（1874年）</p> <p>【スライド9枚目】明治政府による琉球へのアクション③ →琉球処分以前に明治政府が琉球に対して行ったことを確認（1875年）</p> <p>めあてに対する予想を立てる。</p> <p>【スライド10枚目】</p> <p>問1： 【個人】 日本が琉球を領土に組み込もうとした際、琉球はどのような対応策を考えたのか。予想をワークシートに記入しよう。</p> <p>生徒予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦った ・助けを求めた ・抵抗しないで、従った など。
<p>④情報収集（知識・技能 10分）</p> <p>⑤考察・構想（思考力・判断力・表現）</p>	<p>【スライド11枚目】</p> <p>問2 【個人】 年表配布 1875年7月に「琉球処分官」松田道之らが来琉し「清国との関係を断つ」等の要求を突きつけてから、1879年4月に沖縄県が設置されるまでの間に、琉球が考えた対応策を年表から読み取り、要約して箇条書きにまとめよう（主に4つあるよ）。</p> <p>※この年表は「琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブ」HP掲載の「歴史年表」のうち、関係のある箇所を抜粋してあります。詳しく知りたい場合は、下記URLを参照してください。</p> <p>https://ryuoki-archive.jp/chronology/#1879</p> <p>【スライド12枚目】</p> <p>琉球の選択について、生徒発言を活かしながら確認。 教師発言確認</p> <ol style="list-style-type: none"> ①明治政府の説得に応じ、清との関係を断ちつつ王国を存続 ②あくまでも「日清両属」を保てるよう、明治政府に訴える ③密かに中国へ役人を派遣し、琉球を救ってもらえるよう頼む ④欧米諸国に訴える <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※参考</p> <p>①明治政府の説得に応じ、清との関係を断ちつつ王国を存続→少数派</p> <p>②あくまでも「日清両属」を保てるよう、明治政府に訴える→主流派 ※1875年9月 池城親方安規（いけぐすくうえーかた あんき。三司官）ら陳情団が</p> </div>

	<p>力 20 分)</p>	<p>内容</p> <p>東京へ。以後、3年間、東京で琉球救国運動を開始。明治政府へ琉球存続の請願書を出し続けるも、その都度拒否された。</p> <p>③中国へ琉球を救ってもらえるよう働きかけた（琉球救国運動） →1876年 池城親方の命を受けた林世功（りんせいこう [中国名]、名城里之子親雲上春傍 [なしろさとぬしパーちゃん しゅんぼう、琉球名]）らが清国へ密航、救援活動を展開。 →清国も理解を示し、日本へ抗議。</p> <p>④国際世論に訴えた。 ※駐日各国大使へ琉球救国請願書を提出 →1878年、琉球は、幕末にアメリカ・フランス・オランダと結んだ修好条約を根拠に琉球の独立性を主張し、琉球救国を請願。</p> <p>【スライド13枚目】</p> <p>問3 【個人】 琉球が考えた4つの対応策のうち、あなたがもし当時の琉球王国の高官だったら、どれを選びますか。一つ選び、選んだ理由も書きましょう。 ※適宜、スライド12に戻して4つの対応策を表示する ワークシート： 「私は（ ）の選択肢を選びました。なぜなら…」</p> <p>問4 【グループ】 お互いで自分の考えを発表しあう。グループメンバーの意見を聞いて、自分の考えも改めて考えてみましょう。</p> <p>教師発言：どの案を推すかいろいろ話があったかと思いますが、王国内部でも意見がまとめられていきます。</p> <p>【スライド14枚目】 王国内部での意見集約のイメージ ※①の意見は少数派 → ※琉球王国を存続させるため、②～④の方法がとられた</p> <p>教師発言：琉球のこのような方策とその結果は、関係する国々の思惑も含めて、次のようにまとめられます。</p> <p>【スライド15枚目】 関係図を提示し、日本・琉球・清・欧米のそれぞれの思惑を確認</p>
<p>ま と め (10 分)</p>	<p>⑦ ま と め</p>	<p>講義：沖縄県の設置【スライド16枚目～17枚目】</p> <p>教師発言：琉球の動きに対し、明治政府もいよいよ次のように行動します。</p>

	内容
⑧ 振り 返り	<p>【スライド16枚目】 明治政府 ①琉球を説得するのは困難。 ②琉球の帰属が国際問題になっては困る。 →強硬な「琉球処分」案を策定。</p> <p>1879年（明治12）3月、明治政府は琉球処分官・松田道之と内務官僚41名、約400名の軍隊、および約160名の警察官を琉球に派遣。</p> <p>【スライド17枚目】 松田道之は、琉球に対し藩王尚泰の上京、首里城明け渡し等を命じた。同年4月4日「琉球藩ヲ廢シ沖繩県ヲ置ク」ことが全国に布告され、約450年間続いた琉球王国は幕を閉じ沖繩県が設置された。</p> <p>※近年の研究では「琉球処分」という明治政府側の視点での用語ではなく、客観的な歴史事実を示す「廢琉置県」という用語も使用されている。</p> <p>教師発言：こうして、沖縄の近代期が始まります。</p> <p>【スライド18枚目】 問5 【個人】まとめ ①今日の授業で分かったこと、②最初の予想と比べてどうだったか、③グループメンバーの意見や今日の授業を通して考えたことを文章でまとめてみましょう。</p> <p>問6 【個人】新たな疑問 今日の授業を終えて、新たに調べたいことは何ですか。</p> <p>【新たな問いと発展的な追究】 その後、琉球と日本の関係はどうなったのか？ 日本が琉球を引っ張り終えたのはいつと言えるのか？ 「琉球処分」に反対していた人は、その後、諦めたのか。 中国との関係は、どうなったのか。</p>